

# 協賛・協力会社懇談会に50社72人

松本大使が講演、2社に感謝状



事業報告を聞く協賛会社、協力会社の皆さん

ベルマーク教育助成財団は3月8日、協賛・協力会社懇談会を都内で開き、協賛会社30社53人、協力会社10社19人が参加しました。事業成果を報告し、新年度予算と事業計画を説明し、各社の担当者間の交流を図るため、毎年この時期に開催しています。今年は市場調査費1億円を達成したアウロスリコーダーのトヤマ楽器製造に感謝状と記念品を、長年にわたり膨大な運動参加団体分のベルマーク預金口座を管理していただいた三井住友信託銀行に感謝状を贈りました。

会の冒頭、銭谷眞美理事長は、運動参加校の教育設備の充実とへき地校や被災

校の支援というベルマーク運動の目的に触れ、「これからも二つの事業をしっかりと続けていきたい。それには協賛会社、協力会社のご支援、ご協力が欠かせない」とこれまでの尽力に感謝を述べ、引き続いての理解と協力を求めました。財団職員が事業成果報告や事業計画、18年度予算の概要を説明に続き、「ベルマーク大使」の1人、ジブラルタ生命保険の松本哲執行役員が講演しました。演題は「すべては未来を担う子どもたちのために」でした。

双子のお嬢さんの親としてPTAに参加したのが、ベルマーク運動にかかわる

きっかけでした。ベルマークをあしらったTシャツを作って運動説明会で発表し、財団事務所で仕分け前の大量のマークを見ると、社内で有志を募って、仕分け・計算のボランティアを始めました。

昨夏の台風で被害を受けた鹿児島県の離島にある町立喜界中学校から窮状を訴える手紙が届くと、ベルマーク13万点を寄贈しました＝一面参照。「本を送ることは簡単だけれど、それでは意味がない」と、あえてマークを寄贈しました。

「本当に助かりました。自分たちで本が選べるなんて、こんなに素晴らしい運動はない」と校長に感謝されたそうです。



(写真上)「多くの方に支えられてベルマーク運動は二つの役割を果たして参りました」と感謝の言葉を述べる銭谷眞美理事長

(写真下)講演するジブラルタ生命の松本哲さん

「大使」仲間や市を挙げてマークを集めている愛知県豊橋市とも連携、協力してイベントに参加したり、他の協賛会社にもグッズの提供を呼びかけたりして、機会あるごとにベルマーク運動の意義を訴えています。

講演の熱気がさめやらぬ中、会場を移して立食形式の懇親会に入りました。乾杯の発声は西村陽一専務理事でした。平昌冬季五輪の取材記者たちから聞いた涙あり、笑いありの裏話を披露すると、会場は一気に懇親会ムードになり、業種を超えたベルマーク運動や社会・地域貢献談義が交わされました。

## へき地、被災地中心に5千万円の支援を予算化

海外は途上国の9事業、財団

ベルマーク財団は2018年度も、東日本大震災の被災校やへき地校をはじめ厳しい環境にある学校を支援します。支援の予算総額は約5千万円になります。

へき地校支援は1960年に始まったベルマーク運動の原点です。2018年度も全国100校を対象に1校30万円まで希望の備品・教材を選んでもらいます。協賛会社などからの寄付も合わせて一輪車講習会や理科実験教室といったソフト事業にも力を入れます。特別支援学校(養

護学校、盲学校、ろう学校)と病院内学級、海外日本人学校への支援も続けます。

大震災被災校への支援は震災から7年が経過し、モノの支援は落ち着いたとみて、予算額は820万円に減額しました。一方で、突発的な災害に備えて270万円の緊急災害援助を用意しました。

仮設住宅に住む児童・生徒の学習補助や、長期休暇中のキャンプなど学校では対応が難しいボランティア活動

を内容とする「寺子屋」事業や、被災地と公害病の惨禍から立ち直った熊本県水俣市の子どもたちが集い、共に復興を考える「福島・水俣教育交流」は「中学生九州サミット」と名を変えて、継続支援します。

アフガニスタン、ラオス、タイ、ミャンマーといった途上国に対する海外支援も9事業を支援します。

## ベル便りコンの賞金で本を寄贈

東京都練馬区石神井台小

2017年度のベル便りコンテストで佳作に入賞した東京都練馬区立石神井台小学校が、賞金で買った本を図書室に寄贈しました。「また一つ子どもたちの役に立てました」と関係者はうれしそうです。

ベルマーク便りを作った「父母と教職員の会」児童活動部の16年度部長の田中晶世さん、副部長の原未佳さんによると、他校の活動も参考にし、17年度役員とも相談して賞金の使い道を考え、低学年・中学年・高学年用に

合計7冊の本を選びました。「ベルマークだよりコンクール佳作記念」のラベルを本に付けて、図書室には専用ブースも設けられました。「いつもベルマークを集めてくれてありがとう」の文字が躍っています。

「本を選ぶのがとっても楽しかった」と話す田中さんと原さんは、ともに下のお子さんが4月に小学生になります。「これからも楽しんでベルマーク運動に参加させて頂きます」と張り切っています。



図書室の特設スペースには「ベルマークだよりコンクール佳作記念、いつもベルマークを集めてくれてありがとう!!」のポスターと本